



私たちが暮らしの中で浴びている自然放射線の量は、例えば日本なら平均1・5mSv/年くらいです。世界平均では2・4mSv/年ですが、場所によっては2桁、3桁のところがあります。例えばイランのラムサルでは100mSv/年より上です。赤い線で区切つてある100mSvより下は「がんの過剰発生が見られない」と書いてあります。年間や一度に浴びた時でも、100mSvより下なら、世界中の疫学調査の結果を見てもがんの過剰発生が見られないということを感じておいてください。つまり、放射線そのものが「危険」や「毒」ということではなく、量の問題だということなのです。

なぜ放射線をこんなに怖がりすぎることかという、いろいろな要因があると思いますが、私は「目に見えない」からだと思っています。私たちが生まれた時から一緒にいるのですが、目に見えないから分からなかったのです。事故があつて、急に「放射線がこんなにある」と言われるから怖いのです。

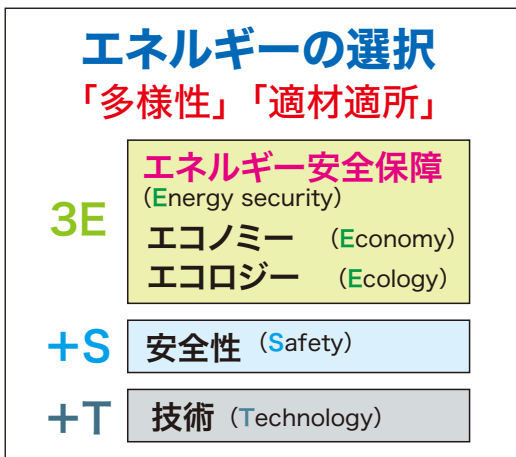
皆さん、料理に塩を入れる時いちいち量っている人はいますか？「7gだ」とか「6・999gだ」とか・・・量らないですよ。

つまり人には、塩をひとつまみ料理に入れるという勘があるのです。だいたいの物差しを持つているからひとつまみ、ふたつまみ入れたりできるのです。同じように放射線についても物差しを持って、怖がりすぎたり怖がらなすぎたりということがなくなるのではないかと思います。

私は決して「放射線は毒じゃない」とか「安全だ」と言っているわけではなく「安全だ」と言っているわけではなく「塩と同じように、物差しを持って不安は減らせます」と言っているのです。

「3E+S」+T

島国日本にとって、どういうエネルギーを使うかの選択は非常に重要です。よく政策上言われるのが「3E+S」です。「エネルギー安全保障(Energy Security)」と「経済性(Economy)」と「環境性(Ecology)」が「3E」。これに福島事故以降「安全性(Safety)」が加わつて「3E+S」です。しかし私はこの島国にとって大事なものは「多様性と適材適所のエネルギー源」だと思っています。



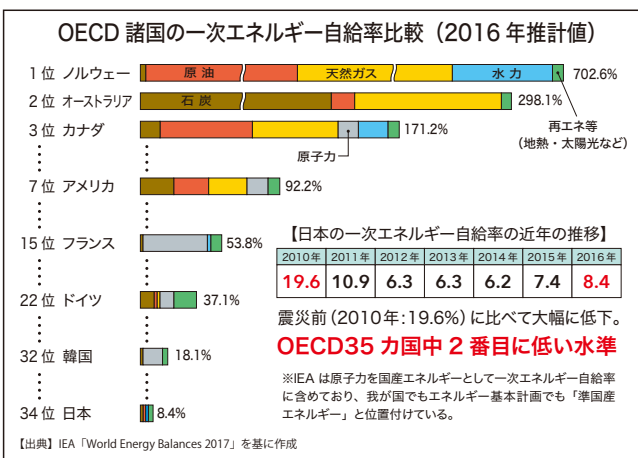
よく、「ドイツがこんなことをやっているから日本もやる」などと言う人がいます。私は世界の環境・エネルギー事情を取材してきた経験から、エネルギーの選択はその国その国の歴史や地政学上の特性を色濃く反映した結果であつて、他国の真似はできないと考えています。日本は特に自給率が低い、化石資源が少ない点から見ても、多様なエネルギーでリスク分散を図ることが必要です。そして島国日本にとってどういうエネルギー源が良いのかは地域によっても異なりますが、適材適所を選ぶこ

とも大切だと思います。

私は「3E+S」の次に「技術」の「T(Technology)」を独自に加えています。日本は化石資源がない国ですから、エネルギーをつくる技術、使うエネルギーを減らす省エネルギーの技術が世界で通用するかどうかという観点も必要だと思っています。

エネルギー安全保障

左のグラフは各国の一次エネルギーの自給率です。OECD諸国、経済が豊かな国々の中で、日本の一次エネルギーの自給率は35カ国中34位です。震災後は再生可能エネルギーが少し増えてきて、日本のエネルギー自給率は8・4%です。つまり92%近くを外国から輸入しているということです。



日本の原油はほぼ100%輸入で、そのうちの8割以上が中東からです。これらはホルムズ海峡やマラッカ海峡を通らなければ日本に届きません。しかし、ここには海賊行為

があつたり、外交的に問題があれば封鎖されたりしかねない場所です。ここを無事に通らないと日本には来ないのです。ですから私はエネルギー安全保障という意味で、自国のエネルギー源に非常にこだわっています。

エネルギーの環境問題

エネルギーの環境問題で、大きなものは2つの「ゴミ問題」だと思います。一つは化石燃料のゴミ問題。これが二酸化炭素による地球温暖化問題です。

もう一つのゴミ問題は原子力のゴミです。原子力発電を行なった後のゴミは二酸化炭素のような気体ではありません。固体です。高い放射線を出すので、高いレベルの放射線を持つ廃棄物(高レベル放射性廃棄物)という言い方をしています。これをどこに、どのように捨てるかという問題です。

世界中で将来的にどうするかを検討してきました。結果、科学者たちが合意した方法があります。それが地底深くに置きましようという方法です。つまり、原子力発電所で使った燃料をリサイクルした後に残る高レベル廃棄物は、ガラスと混ぜて金属容器で覆い、粘土などの緩衝材で包んで地底の300〜400mくらいの場所に置くという「地層処分」をしようということが世界的に決まったのです。

「ゴミ問題が解決しないから原子力は稼働しないほうがいい」という主張をされる人がいます。しかし科学的には解決方法があり、フィンランドとスウェーデンは地層処分の場所が決まりました。スイスやフラン